

世界連邦 Newsletter

2014年 3月28日
第622号



発行所

世界連邦運動協会

World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 F A X (03) 6803-2117

E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan

URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替 00190-6-29964

1部 100円 (年6回 奇数月1回 28日発行)

全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展

文部科学省後援、文部科学大臣賞も授与、応募作品 2724 点

第 42 回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展が 2 月 14 日から 17 日まで、東京都庁第一本庁舎南展望室で開催された。文部科学省が後援。文部科学大臣賞も授与された。表彰式は、2 月 15 日、新宿 NS ビルで行われ、入選した児童、生徒、父母や親族など約 70 名が全国から出席。日下部理事長（元文部政務次官）が文部科学大臣賞賞状と副賞（トロフィー）または海部俊樹会長賞状、副賞（特賞＝楯、湯川スミ賞＝ブロンズ、入賞＝楯、佳作＝メダル）を授与した。今年はポスターが 372 校 1868 点、作文は 39 校 856 点の応募があった。表彰式当日は大雪で交通が混乱し、残念ながら駆けつけられなかった生徒さんもいたが、表彰式を手伝ってくれたスタッフの方のおかげで無事終了した。



文部科学大臣賞の作文を朗読する望月風我さん
(富士宮市立富士宮第一中学校 3年)

作文の部・文部科学大臣賞 「姉からのお土産」

富士宮市立富士宮第一中学校 三年

望月 風我

今年三月、姉が一年間のカナダ留学を終えて日本に戻ってきた。一年ぶりに会った僕は、姉の大きなバッグから出てくるお土産にわくわくしていた。そんな僕の浮かれた気持ちは、姉の発した言葉によって一瞬でどこかへ行ってしまった。

「カナダで出会った友達の中に、戦争で片目を失った子がいたんだよ。」

僕は思わず息をのんだ。恐る恐るどうしてかを尋ねる僕に、姉はカナダは多民族国家で移民も多く、さらに姉の行った高校では、三十五ヶ国以上の国籍を持つ生徒達が、入学や、姉などのように国外からの留学や、戦地から

難民として避難をし、籍を置くなど、多くの学生と一緒に学んでいた。内戦で片目を失った彼も、その中の一人だと話してくれた。

スペイン語の授業を選択した姉は、そのクラスで彼と出会った。姉が出会った時、彼はクラスメイトから距離をとり、一人孤独に見えたようだ。仲良くなってから聞いた話によると、片目を失っている自分は周りのクラスメイトに不快感を与えてしまうのではないかと、周囲に溶け込めずにいたらしい。僕の姉は、とても明るく、誰とでもすぐに仲良くなれる性格で、その良さは、言葉が十分に通じるとは言えない他の国へ行っても変わる事な

く発揮出来たようで、そんな彼とも、授業での会話の相手に誘うなどするうちに、あっという間に仲良くなったようだ。彼も姉に対し、次第に心を開き、自分の辛い経験を話してくれるようになったそうだ。自分がソマリアから難民として来ている事。弟とは離れ離れになっている事。父親は自分をかばって銃撃され亡くなった事、そして自分も被弾し片目を失った事など、普通では話したくないだろう事を聞かせてくれたのだ。

僕たち兄弟は、幼い頃から両親に連れられ、戦場写真展を見たり、子ども向けに作られた戦争に関する本や映画を見たりしていた。そういう事に一番関心を持って熱心に見ていた姉でも、同じ年齢の彼の口から聞く戦争の体験は、今まで想像でしかなかったものが、何か形となって自分の身体の中に入ってくるような感覚を覚えたそうだ。さらに姉が衝撃を受けた一言が、

「ここでは、戦争の心配をしないで安心して眠れるし、勉強も出来る。また、いつ自分の国へ戻らなければならなくなるか分からない僕は、これから生き抜くために、今出来るだけ沢山の事を覚えたいんだ。」

¹ 姉が彼の人並み外れた物覚えの良さと学習に対する意欲の高さに驚いて尋ねた時の彼

の言葉だったそうだ。今まで勉強は、学校の試験や受験の為にするものだと思っていた自分を恥ずかしく思ったそうだ。それを聞いた僕も何だか自分が情けなく思えてきた程だった。

世界百九十ヶ国以上ある国の中で、今もなお、二十カ国以上で戦争や内戦が続いている。子どもの兵士がいる国も四十ヶ国以上あり、僕らより幼い子ども達までもが銃を持ち戦場へ駆り出されるなど、五十万人もの子ども達が何らかの形で戦争へ行っている。子ども達の多くは、戦争や飢餓、病気などで家族をなくし、子どもだけで行き場を失い、住む場所や食事を求めて、仕方なく入隊してしまう事が多いそうだ。また、戦争が終わっても、食料不足などは解決されず、さらに地雷が埋まっている所も多く、その場所も特定されないなど、人々が安心して暮らせるという事は程遠いのだ。

僕は今まで何不自由なく育ち、安心して暮らせる事を当たり前だと思っていた。しかし、これからは世界の現状にしっかりと目を向け、今の幸せに感謝しながら、将来、世界の人々が少しでも安心して暮らせる社会にする為に、自分の力を生かせる人になれるよう、今やるべき事に全力で取り組んでいきたい。



〔ポスターの部〕



文部科学大臣賞

海津市立海西小学校 6年

浅野 桃香 さん



表彰式風景

田中優氏 「新しい人権としての環境権」講演会



岡山県支部では、まだ余寒厳しい2月28日午後6時30分より岡山県倉敷市ライフパークにて田中優氏による「新しい人権としての環境権」と題して講演会を行った。この講演会は、倉敷市人権啓発推進事業として採択されたものであり、当日は倉敷市長はじめ多くの方よりメッセージを

頂戴した。

岡山県支部の仁熊實副支部長より開会挨拶、司会は綾大介事務局長代行によりスタートした。講師の田中優先生は、まず地球温暖化について写真などで具体的に世界各地の悲しい変化などをご説明、現代を生きるものの問題だけではなく、我々子孫の生きていく人権を脅かす問題だと指摘された。そして、実際に太陽光パネルや独自システムの「パーソナルエネルギー」により自宅から電力会社からの送電線

を完全に切断した体験談をご説明いただいた。そして、原発問題についてチェルノブイリの実例を提示され、放射能により病気が多発するのは事故直後ではなく5～6年後爆発的に増えるとのこと説明があり会場がどよめいた。環境が脅かされた結果居住区域が狭くなり食物も制限されようとする環境権は、残念ながら環境基本法などの法律ではこの概念は盛り込まれていない。日本国憲法改正論議の焦点として、第9条の問題に加え、この「環境権」の位置づけを確立すべきと締めくくられた。

質疑応答時には多くの方々から熱い質問があったが、多くは次世代のためにどう我々の行動意識を変えていくべきかに集約された。

講演会の最後には田中先生から「気候変動や病気・困窮に対して地球規模で解決したいとした国際連帯税について活動している世界連邦運動協会は貴重な存在であり、たとえ会員が少なくなったとしても絶対に存続してほしい活動である」と励ましのお言葉を頂戴した。
(稲見 圭紅)

ユースフォーラム支部で鳩山元総理が講演



ユースフォーラム支部は憲政記念館会議室において第2回グローバルハート勉強会を行なった。

講師は元内閣総理大臣で第15代国会委員会会長の鳩山由紀夫氏。2005年8月2日に成立した世界連邦国会決議は議院運営委員会で修正が入ったが、当初案について森山真弓国会委員会会長（当時）らとともに鳩山氏は民主党を代表して提出者の1人になっていた。

この勉強会の運営にあたっては社会人の谷本真邦支部長や私（大友）だけでなく、学生が中心になって働いた。講師への依頼状についても手直しを入れたとはいえ、原案は学生が作成した。

当初、大学の教室を借りる予定でいたところ、入

試時期で借りることができず、会場決定が予定より大幅に遅れてしまった。また、旅行に出かけたり帰省したりしている学生が多かった。そういった困難にも負けず、みんなで団結して結果的には盛会に終わらせることができて良かったと思う。

尾崎行雄記念財団の石田事務局長にも大変お世話になった。同財団が主催する「罌堂塾」の塾生さんにも参加していただいた。

一橋大学の砂塚翔太の司会の下、勉強会がスタート。鳩山氏は、東アジア共同体のことを中心に国際関係について語った。特にアメリカだけでなく、アジアなど近隣諸国との連携が重要であることが強調された。

講演に引き続いての交流会にも鳩山由紀夫氏は参加。若者・学生と個別に語り合った。元総理と身近で語り合えたのは学生たちにとって貴重な経験・思い出となったであろう。

鳩山元総理と言えば、2012年11月8日に第15代国会委員会会長を引き受けていただきながら、その直後の総選挙に出馬せずにご勇退、このまま縁が薄くなってしまふのは寂しいと思っていた。これをご縁にまた今後もお世話になりたい。

（ユースフォーラム執行部 大友大輔）



あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会 〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

普通会員／年額 5,000 円 維持会員／年額 10,000 円 賛助会員／年額 15,000 円

世界連邦関連本

世界連邦のことについて書いてある本について 3冊紹介させていただきます。ぜひ皆様もお読みください。

ヨシモトブックス「みんなで考えるニッポンの未来」 中野寛成

ご存知、元国会委員会会長にして現在運動協会の副会長を務める中野寛成先生の著作である。

タレント 2 名＝ロザン宇治原さん＋ハイヒール・モモコさんとの対談形式で書かれているため、非常に読みやすい。あまり政治の本を読んだことがない人も、この本を最初に読めば政治に関心を持つきっかけになるのではないかと思います。

特に p210～213 で世界連邦について詳しく触れられている。国際連帯税など、新しい取り組みも解説。

東進ブックス「つたえたい、夢の伝記」 斎藤整

受験予備校・東進ハイスクールの世界史講師が書いた本。と言っても受験に出る暗記ポイントをまとめたものではない。

真に歴史を動かしてきたものは「夢」であるにもかかわらず、教科書に「夢」「希望」「勇気」「友情」などの言葉が登場しないことを著者は憂い、夢に向かってまっすぐに進んだ20名について記したものである。

その最終章が湯川秀樹氏。湯川氏の世界連邦へ取り組みにも触れてある。そしてこんな言葉も。「湯川のイメージ通りに未来が生まれつつある。」

レイライン「arc/13」

「世界連邦政府憲法私案」というものが日本語・英語で載っていてびっくりした。「今回 arc 編集部は、大きな時代のうねりと時の到来をひしひしと感じ、無謀を承知で『arc 世界連邦政府憲法私案』に挑戦した」と前書きにある。特にわが団体に取材が来たわけでもなんでもないにもかかわらず、このような件に関心を持ち、条文策定まで行なった人がいるということに感銘を受けた。2005年8月2日の国会決議

についても触れられている。歴史的経緯などについてもかなり正確に記述されている。

他にも小学生向けの湯川秀樹氏の偉人伝や数年前の大学入試センター試験・日本史など、注目していると世界連邦についての記述が目にとまる。互いに情報交換し、世界連邦運動の広報や組織拡大につなげていきたい。

(塩浜 修)

なぜ貧困はなくなるのか？

3月1日開催のJAZZトークLIVE「Why poverty なぜ貧困はなくなるのか？～今までのチャリティは間違っていた？～」(主催: Charity*Japan - チャリティジャパン)に行ってきました。

講師の伊勢崎賢治氏は東京外国語大学 総合国際学研究院(国際社会部門・国際研究系)教授。ジャズ・トランペッターでもある伊勢崎氏がトリオ・ライブでマイルス・デイビスの So what など演奏し、世界の貧困はなぜなくなるのかをドキュメンタリーを題材に解説した。

アフリカなどほぼ自給自足だった地域もグローバルな貨幣経済に巻込まれた。貧しい国が産出する農産物や鉱物、資源等の価格が下落したり、豊かな国が有用な情報をいち早く得ることによって、富める者はますます富み、貧しい者はますます貧しくなる。ミレニアム開発目標(MDGs)のことは最近言われなくなったが、こうした中で貧困をなくす上で役に立つ可能性があるのが金融取引税などの国際連帯税であると伊勢崎氏は指摘した。

まずは事態を正しく知ることが大事であり、メディアは正確に報じなければならないし、そうしないなら報じるように私たち市民が働きかけねばならない。

なぜ貧困はなくなるのか。

<http://www.nhk.or.jp/wdoc/whypoverty/>

(阿久根 武志)

津軽で開催した Think Asia フォーラム

広がる平和運動の地平線



3月7日、青森県平川市で「Think Asia—先人たちが築いた絆を求めて」と題したフォーラムを開催した。主催は財団法人国際平和協会。共催は地元の高齢者ケアを行う社会福祉法人緑風会という異次元の組み合わせ。その夜、平川市の老人ホームは台湾と日本をつなぐ国際的雰囲気にも包まれ、地元新聞記者も取材に訪れた。

台北駐日経済文化代表処の政務部長である周学佑氏が地域が国際的交流を深める意義を説き、小生は烏山頭ダムを築いて台南の人々から今も慕われる八田與一の話をした。

この起こりは昨年9月、国際平和協会が主催した台湾視察旅行に緑風会の役員や職員が参加したことだった。このことは以前にもニュースレターで触れたことがあるが、彼等が台湾で経験したことを地元の人たちや他の職員にも広めたいとの強い希望があり、地吹雪が吹き荒れる津軽の地で Think Asia フォーラムの開催となった。

フォーラムには平川市長に当選したばかりの長尾忠行さんや弘前市副市長の蝦名正樹さんも駆けつけた。たまたまではあるが、周部長の奥さんが平川市に隣接する黒石市の出身だったこともあり、会場には津軽一帯から多くの参加者があった。

津軽は明治初期に開明的な日本人を数多く生んだところとして知られる。ジャーナリストの草分けの一人陸羯南があり、孫文革命の初期に広東省惠州で命を絶った山田良政は津軽どころか日本という枠を飛び出しアジアの開放のために尽くした。弘前市の

貞昌寺には山田に送った孫文の碑文が残り、周部長は翌日、その石碑の前で花を捧げた。

津軽と台湾をつなぐのは孫文革命だけではない。津軽リンゴは台湾で最も多く販売されており、経済面でもつながりも決して小さくない。今回のフォーラムはさらに文化面で人の交流を広げる大きなきっかけになるとの評価もいただいた。

Think Asia 津軽フォーラムのパンフレットにわれわれは次のような文章をのせた。

東アジアをめぐる政治情勢がこの上もなく緊迫しています。この地域に平和と安定を求めるため、先人たちの残した絆をもう一度再構築することが最重要課題だと感じています。私たちはそれを「アジアの意思」(Think Asia)と呼んでいます。

2013年9月私たちは台湾を旅しました。高齢者施設や少年鑑別所など普通の日本人が訪ねることのないところを多く視察し、「先人たちの築いてきた絆」を再確認して来ました。

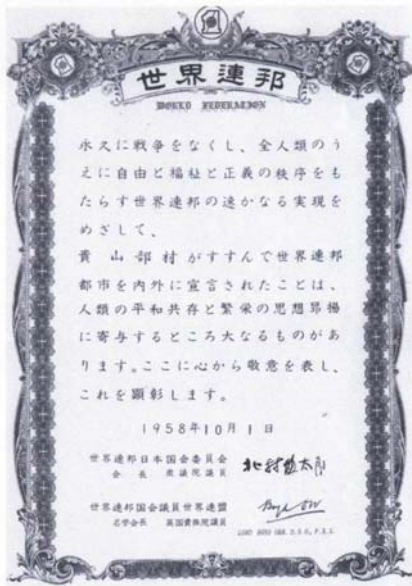
なぜ津軽なのか・・・、それは混迷するアジア情勢のなかで発信力を備えた有為な人材への期待を津軽の教育と人々の躍動にみたからです。最近の積極的な独自のアジア外交や、内においては真摯な教育への取り組み、そして津軽文化への前向きな継承など、全国津々浦々における地域や自治体の魁となるモデルケースとして、かつ地域住民の誇りとして、ときに忘れがちなことや、行動への戸惑いについて、人々の在り様を再度想い起す機会として提案するものです。津軽のみなさまにも私たちの体験を共有してもらい、Think Asia の共感を広げたいと思います。

先人たちの残した絆を大切に育て上げるには後生の人たちの仕事である。そんな自覚から平和運動の地平線も各地に広げられる。そんな思いがした3日間だった。国際平和協会の津軽支部をつくろうという機運も高まっているから嬉しい。

(国際平和協会会長・伴 武澄)

世界連邦の顕彰状 島強さんの手に

世界連邦・北海道代表 荻野忠則



富良野市在住の会員 島強さんから松藤日出男事務局長に大きな封書が届きました。額に入っていたらしい大きな立派な顕彰状と丁寧なお手紙でした。顕彰状は昭和33年のもので、当時の世界連邦

日本国会委員会会長北村徳太郎と世界連邦国会議員世界連盟名誉会長ボイト・オア卿それぞれの署名が入った実に貴重で名誉で歴史的な意義も深いものです。

北海道第一号の世界連邦平和都市宣言が、その後の運動の大きな力づけになったことも察せられます。

この顕彰状の発見と島さんに渡った事情には偶然とは思えない神仏の配慮を感じるそうです。曰く。「世界連邦・北海道ニュース 225号掲載の島強之の道新記事と人物紹介をほしいと地域振興会の会長が言うので、コピーして渡したところ、それを富良野市山部支所長が見て、「ひょっとして、大変なものを見つけた」と言って事務所から額を持ってきました。数秒違えば額は捨てられたかもしれないということでした。この支所は元村長で世界連邦北海道連合会の副会長で、この宣言を実現させた運動家でもあった故日野政史さんの居た



ところでした。日野さんが私に託したのだと感じました。」と。

島強さんは第 29 回世界連邦日本

大会札幌 2010 のシンポジウムにコメンテーターとして参加、東京大学演習林の勤務経験から地球環境の保全と人間の欲望を語り富良野市に世界連邦平和都市宣言実現をと訴え、聴衆に感銘を与えました。その年、その実現の実行委員長として、その宣言を実現させた人物です。

世界連邦標語 最優秀賞表彰



2月21日第三回執行理事会の際、世界連邦標語の最優秀賞の表彰が行なわれ、相模原在住の内河裕信さんが日下部禧代子理事長から図書カード5,000円分を贈呈された。

内河さんは平日にも関わらずお越しいただき、弊社にお勤めであること、通勤時間中にいくつも標語をつくったことを伝えた。最優秀作品は「国を超え手と手をつなごう 世界連邦」である。

内河さんの作品はこのほかに「戦争は しないさせない 世界連邦」「国を超え 地球を守ろう 世界連邦」「国を超え 地球を守ろう 世界連邦」「この子らの 笑顔を守ろう 世界連邦」などいくつも選ばれたが、これは審査の際、作者名を伏せて選んだ結果である。

最優秀賞

「国を超え 手と手をつなごう 世界連邦」

内河裕信さん

2014年度定例総会招集告知

下記により世界連邦運動協会2014年度定例総会を開催しますので、ご出席ください。

日時:2014年5月24日(土) 午後1時～午後4時30分

場所:JICA地球ひろば セミナールーム 600 東京都新宿区市谷本村町 10-5

議題 ①2013年度会務報告に関する件 ②2013年度決算・監査報告に関する件
③2014年度運動方針・活動計画に関する件 ④2014年度予算に関する件
⑤理事・監事選出に関する件 ⑥支部提案 ⑦その他

<注1> 総会は支部および団体会員から選出される代議員と役員によって構成されます。会員はオブザーバーとして出席することができますが、会場の席数に限りがありますので、出席を希望される方は予めお申し出下さい。

<注2> 支部提案のある支部は支部名、提案題、発表者名を5月14日までに事務局まで送付して下さい。説明を簡明にして、所要時間節減にお努め下さい。

<注3> 「JICA地球ひろば」の最寄駅は市ヶ谷です。

地図 <http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

本部と支部等の動き

2月14日～17日 都庁第一本庁舎南展望室 45F
世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクール
2月15日 新宿NSビル3F 同コンクール表彰式
2月21日 第三回執行理事会
4月11日 世界連邦推進協議会理事会・
世界連邦運動協会第四回執行理事会
5月21日 豊中支部総会・社会見学 湯村温泉
5月23日 第二回理事会
5月24日 世界連邦運動協会第69回全国総会



編集後記 ★ユースフォーラム支部、平和を考えるフォーラム支部の再活性化を図っている。この運動を次の世代に引き継ぐために頑張りたい。(塩浜)★東日本大震災から三年が経ちました。被災地ははまだ復興の道半ばですが、思いを馳せ続けたいと思います。(阿久根)★地吹雪の津軽に行って思いました。わが世界連邦運動のニューズレターには季節感がない。地域性がないということです。結論はだからおもしろくない。(伴)